

## 松村文人教授を追悼して

本年5月に松村文人教授が急逝されて半年が経過している。われわれを取り巻く時代、社会は何事もなかったかのようにして、われわれはあわただしい歳月の流れに身を任せがちである。だが、松村教授の急逝はわれわれ経済学部・経済学研究科全体に取り貴重ななベテラン教授の喪失である。このことを共通の理解として、『オイコノミカ』の追悼号を準備することになった。執筆者のみなさんが現役の研究者・教員として超多忙な毎日をおくられているなかで、本学経済学部の内外で貴重な論考を寄稿して頂いたことに、まとめ役のひとりとして深く感謝している。寄稿して頂いた論稿は、松村教授の大学院時代にまでさかのぼった研究を報告して頂いた平地論文に始まり、松村教授の研究分野に直接関わる藤井論文、畑論文に及んでいる。さらに、分野は異なるが松村教授追悼の想いが込められた澤野論文、そして、労使関係をスウェーデン経済のなかで位置づけた藤田論文、歴史的観点から自己の研究対象の論点整理を行った木谷論文に至るまで、文字通り多岐に及んでいる。

松村教授の研究業績は以下の業績リストに掲載されている通りである。30年に及ぶ研究生活であったが、時代の状況を真正面から受け止め、あるべき労使関係の姿をめぐって展開された研究の業績は貴重であり、経済学部・経済学研究科にとり大きな研究資産であることを記しておきたい。

2015年12月11日

井上泰夫

名古屋市立大学理事・副学長  
名古屋市立大学経済学研究科教授